

校内研修計画

甲州市立東雲小学校

1. 学校課題

本校の児童は明るく素直であり、友達とも仲良く協力して活動したり、決められたことに真面目に取り組んだりすることができる。縦割り活動などでは、上級生が下級生の面倒をよくみており、そのことが次の学年に引き継がれている。また、児童会が中心になってあいさつの取り組みを続けることで、学校や地域でも自然にあいさつを交わす様子が見られるようになってきている。

学習については、課題に対して丁寧に取り組み、よく考えて学ぶ様子が見られる。今日的な課題や甲州市「確かな学力」育成プロジェクト事業への取り組みを踏まえて、これまで算数科における授業の構造化を意識した取り組みの中で、自力解決の中で自分の考えを持つことや、ペア・グループ学習を通して互いの考えを交流することにも取り組んできた。昨年度は、思考を深める「問い返し」や「意図的な指名」により子どもの学びを深めることについても取り組んだ。しかし、自分の考えを言葉で表現する力はまだ弱いと感じる。友だちの考えを聞き、そのことについて理由をつけて説明したり、内容について意見・感想を述べて評価し合ったりすることができる学級集団を目指していきたい。また、Q-U検査とNRT検査のクロス集計では、授業の中で、二次支援、三次支援が必要とされる児童が、各クラスに少なからずいることも明らかになっている。そのような児童が、より学ぶ意欲をもって学習に取り組めるように共に学ぶ学習集団をつくっていくことが大切だと考える。そして、これまでの本校の取り組みによって培われてきた児童の学習意欲と、本校の課題となっている表現する力を伸ばす授業づくりに取り組むことで、学力の定着を目指していきたい。

2. 研究主題

「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」

～互いの考えの交流を大切にした道徳の授業づくり～

3. 主題設定の理由

本校では、平成27年度から算数科の授業の構造化に着目し研究を進めてきた。授業実践においては、算数科のどの単元で、どのように授業を進めていくか、構造化のどこを焦点化するかという視点で考えてきた。具体的には、

- ① 「スモールステップ」「授業での児童の理解度の把握」「ノート指導」等を意識した学習活動
- ② 「学び合い」を充実させるための教師の児童の見取り方
- ③ 児童の思考を深めさせる問い返しや意図的な指名の方法

である。継続した研究を通して、算数科に限らず他教科においても、授業の構造化を意識した授業展開を広げていくことができた。

それらの成果をもとに「特別の教科 道徳」に視点を移し、研究を進めていきたいと考える。新しい学習指導要領では道徳の時間が「特別の教科」として位置付けられ、体系的・計画的な道徳教育の充実が求められている。これまでの道徳教育及び道徳の時間と比べて何が変わり、何がこれまでと変わらないのかを整理し、「特別の教科」となって求められていることを意識した授業づくりに取り組んでいくことが必要だと考える。昨年度まで行ってきた「授業の構造化」を基に、自分の考えを持ち自分の思いが伝えられるよう、また人の意見を聞くことで自己との対話を深められるよう、「考え議論する道徳」に向けて取り組み、本校の児童の実態を踏まえた道徳教育を推進していくことで、「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」を目指していきたい。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的内容

○特別の教科道徳における「授業の構造化」、「考え議論する道徳」を意識した授業づくり（理論研究・実践・検証）

①思考を深める教材教具の工夫

②学び合いを深めるための手立て（発問・話し合い・書く活動・表現活動）

③自分との関わりの中で深める手立て

○言語活動を整えるための日常的な取り組みの共有

○児童の実態把握（NRT検査、Q-U）とK13簡易法を用いた学級づくり

○授業案の作成・検討及び授業実践

(2) 研究の方法

①講師を招いての学習会

②授業研究会（2回）

③一人一実践授業の提供

5. 年間校内研修計画

研究主任 田邊 珠紀

実施月日		研修内容（領域）		担当・学年	T・C要請	
4	10	第1回	研究の方向性について	研究主任		
	24	第2回	研究の概要について 家庭学習の取組	研究主任		
5	15	第3回	学習会	研究主任	○	
6	5	第4回	NRT検査結果分析 Q-U事例検討会 アタックシートの作成	各学年		
	21	第5回	授業案検討（1年）	1年担任		
7	3	第6回	研究授業①・研究会	1年担任		
8	21	第7回	教育課程説明会の環流報告会 学習会	教科主任・研究主任	○	
9	4	第8回	一校一実践について 家庭学習の取組	各学年		
10	2	第9回	ブロック研究（授業づくり）	ブロック長		
	9	第10回	ブロック研究（授業づくり）	ブロック長		
	23	第11回	授業案検討（5年）	5年担任		
	30	第12回	授業実践について	各学年		
11	13	第13回	研究授業②・研究会（5年）	5年担任	○	
	22	第14回	Q-U事例検討会 アタックシートの作成	各学年		
12	11	第15回	ブロック研究会（ブロック研究のまとめ）	ブロック長		
1	29	第16回	研究の成果と課題について	研究主任		
	2	13	第17回	来年度の研究の方向性について	研究主任	
	3	14	第18回	研究紀要の作成	研究主任	

※研究テーマに沿って全員が授業実践を行い、参観、交流することにより、研究を深める。